（様式１）

Beyond Limits. Unlock Our Potential.
世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成計画

コンソーシアム等の名称：北九州市ＳＤＧｓスタートアップエコシステムコンソーシアム

はじめに　本コンソーシアムが目指す将来像

【北九州市の特色】

(1) 様々な研究開発プロジェクトを推進する北九州学術研究都市　【P21,22参照】
- ・地域イノベーションクラスタープログラム　総事業費約 80億円
- ・知的クラスター創生事業　総事業費約 25億円
- ⇒ 産学連携による研究開発支援企業の関連製品売上　**約356億円**

(2) 北九州産業学術推進機構(FAIS)やCOMPASS小倉によるスタートアップ支援　【P28参照】

(3) 鉄鋼業やロボット産業など、大企業、中堅、中小企業まで層の厚い企業群の集積
- ・鉄鋼業の製造品出荷額：政令市1位
- ・ロボットの製造品出荷額：政令市2位

(4) エコタウン事業を核とした実証研究エリアの提供や環境関連産業の集積と、環境、水分野をはじめとした歴史あるアジア展開の実績
- ・環境、水分野の海外ビジネス受注額　**約350億円**　【P9, 15参照】

(5)「革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト」の推進　【P10参照】

【課題】
(1) ユーザー目線での技術・製品開発の不足
(2) スケールアウト企業の実績が僅少
(3) テック系スタートアップは製品化まで長いスパンでの支援が必要
(4) 近年、市内の産業群の製造品出荷額が約2兆円で横ばい傾向
(5) 企業と行政との連携のもと進めている環境・水ビジネスとスタートアップの連携の拡大

【コンソーシアム形成のポイント】
(1) マーケットを見据えた製品開発支援の体制構築
(2) スケールアウトのためのノウハウの蓄積、人材の育成・招聘
(3) スタートアップを長期的に支援できる体制構築
(4) スタートアップと市内企業が共に成長する連携体制の構築
(5) 行政が培った海外諸都市との友好ネットワークと、企業がもつ海外ビジネスネットワークとの融合

【本コンソーシアムが目指す将来像】

・強みの「環境・ロボット」やＤＸ分野を核にテック系エコシステム拠点都市を形成
- ・大学や高専などから技術と経営の知見を備えたスタートアップを生み出すまち【P25参照】
- ・スタートアップが市内企業との連携で既存産業のアップデートを行い、イノベーションを生み出すまち【P11参照】
- ・介護とロボットの融合をはじめとした、新産業の創出と生活スタイルを実現するまち【P10参照】
- ・技術を活かして日本だけでなく、世界の社会課題の解決に取組むまち【P15参照】

【スケールアウトのエンジン】

・民間主体の実行委員会（グローバルアクセラレーションプログラム実行委員会）によるスケールアウト支援【P17参照】
- ・市内大手ものづくり企業、全国大手の金融機関やVCの参画（14社）と、スタートアップ支援の知見が豊富なメンター等による徹底的な伴走支援
- ・市内グローバル企業のネットワークの活用と環境、水ビジネスで培ったアジア展開のネットワークを活用したグローバル展開支援

Ⅰ．エコシステム形成推進主体について

これまでの北九州市における産学連携の取組みの分析

○ 2001年にアジアの先端産業都市の実現を図るため、**北九州学術研究都市**を整備。本学研では、国（九州工業大学）、公（北九州市立大学）などが同一キャンパスで活動し相互連携により**イノベーションを加速**。多くの研究員が在籍するなど大きく発展。
○ 学研都市における産学連携のコーディネートや研究成果の事業化支援等を**（公財）北九州産業学術推進機構（FAIS）**が実施。
○ **「北九州産業学術推進機構　今後のあり方に関する研究会　報告書**（2014年7月）」で、学研都市の発展と研究開発支援の相乗効果により、産業振興が図られたという評価がある一方、**「一定規模の事業になるまでには息の長い支援が必要」、「研究開発プロジェクトの事業化率は高いが大きな売上になる事例などは多くない」、「全国、海外に広く販路を求めることも必要」、「国、県、市とも連携した事業化後のフォローが重要」**といった課題が提示され、研究開発のあり方以上に事業化後のスケールアウトに関する課題が示された。
○ 近年、本市においても大企業とスタートアップとの**オープンイノベーション**や、**コワーキング施設を通じた協業**など、様々なスタートアップ支援・連携の流れが加速化。
○ 本市以外の日本や世界で形成されているエコシステムに目を向けると、例えば中国の深圳では「Tencent（テンセント）」や「Huawei（ファーウェイ）」などのエレクトロニクス系の企業が立地し、優秀な人材が集積することによりエコシステムが形成。

北九州学術研究都市に集積する大学等

（公財）北九州産業学術推進機構（FAIS）【P21,22参照】

～北九州学術研究都市のコーディネーター～

■理事長：松永　守央（前九州工業大学学長）
■基本財産：3億8,550万円
（北九州市出捐3億円、民間出損8,550万円）
■職員数：65名（令和元年5月1日現在）
民間出身27名（出向12名）、市・県派遣13名、事務嘱託等25名

北九州学術研究都市の代表的な成果と課題

FAIS「中小企業産学官連携研究開発助成」

（株）フジコー
『高性能殺菌・消臭光触媒製品』
（消臭・殺菌フロアタイル、空気消臭・殺菌装置）

第1回ものづくり日本大賞「優秀賞」受賞
第4回ものづくり日本大賞「特別賞」

- FAIS支援により経産省の研究開発助成に採択（平成20～21年度）
- 市産業用地を取得し新工場を竣工（平成25年4月）
- G7北九州エネルギー大臣会合で、主要国大臣に渡される記念品に、同社の空気消臭除菌装置が採択（平成28年5月）

これまでの本市の産学連携の課題提起

・息の長い事業化支援
・大きな売上を見据えた事業化支援
・全国・海外への販路拡大支援
・国、県、市とも連携した事業化後のフォロー

特に民間が得意とする「事業戦略構築」、「財務や販路拡大」の支援の重要性が提起

市内外から「事業戦略構築」、「財務や販路拡大」の知見を集め、スタートアップ支援に反映

Ⅰ．エコシステム形成推進主体について

北九州市の資産・強みである「環境・ロボット」分野　磨きをかけて世界のテック系イノベーション拠点に

○ 本市は1901年の官営八幡製鉄所の操業開始以降、ものづくりの街として日本の経済成長を牽引。
○ 1980年代に深刻な公害問題の克服を契機に**環境国際協力、リサイクル政策や海外水ビジネス**などを積極的に推進。近年では**SDGs未来都市全国第一号認定**、**OECDによる世界のSDGsモデル都市**に選定されるなど、国内外から高い評価。［P36参照］
○ 特に環境、エネルギー関連産業が集積。ロボット分野では、産業用ロボットの世界的メーカーの**㈱安川電機**、数多くのロボティクス研究者を有する**九州工業大学**などが内閣府の交付金を活用し**「革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命プロジェクト」**を推進。

環境・エネルギー・水ビジネスの拠点

公害克服の経験、持続可能な開発、環境保全、国際協力の取組への評価

世界が認める北九州市の環境関連政策　国内外に高い評価

- **国連環境計画（UNEP）「グローバル500」受賞（1990年）**　※日本の自治体として初
- **国連環境開発会議で「国連地方自治体表彰」受賞（1992年）**
  ※　世界で12都市・日本の自治体として唯一
- **OECDの「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」（2018年）に選定**
  ※アジア地域で初（世界で10～12都市）

国際協力

カンボジアへの水道技術支援による「プノンペンの奇跡」

姉妹都市　中国・大連市の環境改善支援（国家主席が本市を視察）

国際ビジネス

ホラシスアジアミーティング［P39参照］

世界のテック系イノベーション拠点に向けた取組

世界への技術展開を可能にする地域資源

北九州エコタウン（実証研究エリア、総合環境コンビナート）

- **実証研究エリア**
  最先端の廃棄物処理技術を始め 資源リサイクル 新エネルギー等、産学官の１０の研究施設が集積。廃棄物を使った大規模な実証実験可能
- **総合環境コンビナート**
  西日本ペットボトルリサイクル㈱、西日本家電リサイクル㈱等のリサイクル関連企業が集積

国際協力・国際ビジネスで培ったネットワークと技術輸出ノウハウ

- **北九州市アジア低炭素化センター**を中心としたネットワーク（**北九州環境ビジネス推進会**［52社、16機関］を核とする関連企業群、**国連環境計画（UNEP）**等国際機関との連携）
- **北九州市海外水ビジネス推進協議会**のネットワーク（146社、15機関）
- 技術輸出支援の優れたノウハウ
  FS調査・開発実証支援、企業間連携による技術のパッケージ化支援、金融支援
  経験豊かな専門人材、JICA九州・JETRO北九州との密接な連携体制

北九州市独自の環境技術研究開発助成

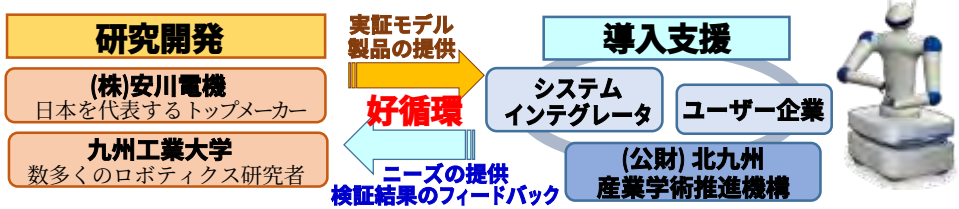
- **環境未来技術開発助成制度による研究支援**　**6,500万円/R2年度**

ロボット産業の拠点

大規模プロジェクトをエンジンに「ロボット都市」の成功モデルを実現

革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命PJ

- **人と同じ作業ができる自律作業ロボットを含めた産業用ロボット研究開発**
- **人材育成**、若者の地元定着　●地域企業への産業用ロボット導入支援



【推進体制】北九州市・(公財)北九州産業学術推進機構(FAIS)・(株)安川電機
九州工業大学・(株)戸畑ターレット・福銀（北九州銀行協会）

関連企業・研究機関・支援機関の集積

- **産ロボPJを軸としたイノベーション創出機運の醸成・地域市場の成長**
  - 新たな研究施設　**安川テクノロジーセンタ**の整備　（2020年度予定）
  - 産学官の拠点形成推進体　**北九州ロボットフォーラム**の活動　（140社・33機関・大学）
  - **ロボット技術センター（FAIS）**や**地域のSIerネットワーク**

国家戦略特区を活用したロボットの社会実装の取組

- **「北九州市介護ロボット開発コンソーシアム」（40社9機関）**の実証支援
- インフラ点検ロボットの実証ワンストップ支援

九工大等と連携した研究開発・高度人材の育成

- ロボティクス研究開発の拠点　九工大の学内組織**「オープンイノベーション推進機構」**（2020年4月始動）と連携した専門人材マッチングや共同研究・実証実験の促進
- 学研都市３大学（北九大、九工大、早稲田）による**「カーロボ連携大学院」**など、先端技術の研究者や地域企業の若手エンジニア、学生が集い育つ環境を整備

北九州市独自の研究開発助成　7,700万円/R2年度

- FAIS研究開発プロジェクト　約5,500万円　中小企業技術開発助成 約2,200万円

Ⅰ．エコシステム形成推進主体について

本コンソーシアムが目指す将来像　**強みの「環境・ロボット」やＤＸ分野を核にテック系エコシステム拠点都市を形成**

SDGs未来都市実現を目標に、ロボット産業などの産業集積や北九州学術研究都市の研究機関との連携を軸にスタートアップを支援

○コンソーシアムの会長は国（内閣府）の「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」会長もつとめる**北橋　健治　北九州市長**。**産業用ロボット、介護ロボット**などの本市のプロジェクトへのスタートアップの参画を支援するだけでなく、環境・水道分野で築いたアジアなどの海外ネットワークを活かし、スタートアップのグローバル展開を**トップセールス**。**スタートアップの力で世界のSDGs達成に寄与**。

○加えて、民間主体で**「グローバルアクセラレーションプログラム実行委員会」**を設置。スタートアップへの伴走によるスケールアウト支援、市内大企業との協業やグローバル展開などを強力にサポート。実行委員会会長は、国際ロボット連盟（International Federation of Robotics）会長などをつとめた、技術者・経営者の**津田　純嗣　㈱安川電機代表取締役会長**が就任。【P17参照】

本コンソーシアムが掲げるKPI（2024年度までの累計値）
① ユニコーン創出件数１社　②市内スタートアップ件数100社　③スタートアップビザ活用件数20件

リーディングイノベーター（一例）（北九州発スタートアップ）

日本環境設計(株)
服のごみから石油由来原料と同等品質のポリエステル製品の製造

九工大発ベンチャー KiQ Robotics(株)
汎用ロボットハンドの開発

リーフ(株)
歩行リハビリ支援ロボットの開発

オングリット(株)
インフラ点検ロボ開発

官民が連携した強力なスタートアップ支援体制

北九州市SDGsスタートアップエコシステムコンソーシアム会長
北橋　健治（北九州市長）
本市のポテンシャルをスタートアップ支援にフル活用

「アジアに開かれた学術研究拠点」を目指す北九州学術研究都市

インフラ点検の実証実験

環境・水ビジネスで培った海外ネットワーク（ベトナムの水ビジネス支援）

グローバルアクセラレーションプログラム実行委員会会長
津田　純嗣　氏（株式会社安川電機　代表取締役会長）
民間リソースをフル活用
ユニコーンを目指す起業家を徹底的に育成支援

グローバルアクセラレーションプログラム実行委員会会員
★ **金融機関７社**（融資提案）、**野村証券㈱、大和証券㈱**（アライアンス先の紹介）
★ **日本ベンチャーキャピタル㈱、Gx・PartnersLLP**（出資）
★ **㈱安川電機**（協業、会長職、実行委員会への協賛）
★ **TOTO㈱、第一交通産業㈱**（協業、実行委員会への協賛）

Ⅰ．エコシステム形成推進主体について

エコシステムの形成主体の組織構成と役割分担
民間、大学・高専、行政等が一体となって本市から世界のSDGsに資するユニコーンの輩出を目指す

○ **民間**は、グローバルアクセラレーションプログラム実行委員会を組織して**スタートアップへの伴走によるスケールアウト支援**、**市内大企業との協業**などを強力にサポートするとともに、**オープンイノベーション**を推進。
○ **大学・高専**はロボットなどの**コア技術開発**や**人材育成**（ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰ、ﾘｶﾚﾝﾄ）に加え、市と連携して**留学生の創業支援**を実施。
○ **行政等**は実証ワンストップセンターよる**徹底した実証支援**、**公共調達（ﾄﾗｲｱﾙ発注の拡充）の強化**、市内大規模プロジェクトとスタートアップの連携に加え、**アジア諸都市との国際協力ネットワーク**やJETRO、JICAと**連携した海外展開支援**を実施。

起業家の掘り起こし
・ピッチイベント
・アクセラレーションプログラム（ＩｏＴメーカーズ）など

誘引

活用

スタートアップ企業

【各種制度】
・専門家による技術相談や伴走支援
・起業オンライン窓口開設
・既存コワーキングとの連携
・補助金

活用

連携プログラム例
・地域イノベーションエコシステム（文科省）
・革新的ロボットプロジェクト（内閣府）
・先進的介護ロボット（国家戦略特区）

連携

北九州市ＳＤＧｓｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ ｴｺｼｽﾃﾑｺﾝｿｰｼｱﾑ
（会長　北橋健治　北九州市長）

民間　【P17参照】
グローバルアクセラレーションプログラム実行委員会による出口支援
（会長　津田純嗣　（株）安川電機　代表取締役会長）
①民間資金により事業拡大を支援
②市内大企業、金融機関やＶＣのネットワーク活用等による出口支援
・オープンイノベーションの推進、スタートアップとの協業など

大学・高専
・ロボット、AIやIoT等のコア技術開発　【九工大・高専・北九大】
・人材育成（アントレプレナー、リカレント）
・留学生向けアントレプレナー教育や市と連携した留学生の創業支援　【ＡＰＵ、北九大、早稲田、九工大】

行政等
・実証ワンストップセンターよる徹底した実証支援
・アジア諸都市との国際協力ネットワークやＪＥＴＲＯ、ＪＩＣＡと連携した海外展開支援
・公共調達（トライアル発注の拡充）の強化
・スタートアップと協働した地域・行政課題解決プロジェクト実施
・革新的ロボットプロジェクト等の市内大規模プロジェクトとスタートアップの連携

民間との協業や実証支援の結果（成果例）
「次世代介護ロボ」
「中小向けロボ」
「インフラドローン点検」
「ＭａａＳ」
「次世代エネルギーシステム」

【民間】
（出口支援・オープンイノベーションの推進）
北九州商工会議所、ＴＯＴＯ㈱、㈱安川電機、㈱ゼンリン、第一交通産業㈱、㈱YE DIGITAL、㈱タカギ、㈱ＮＴＴドコモ　など
（投融資）
日本ベンチャーキャピタル（株）、GxPartners LLP、金融機関　など
（スタートアップ支援）
fabbit共同事業体（一社）まちはチームだ　など
【大学・高専】
九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学大学院 立命館アジア太平洋大学
北九州工業高等専門学校
【行政等】
JICA九州、ＪＥＴＲＯ北九州、九州経済産業局、（公財）北九州産業学術振興機構、北九州市

Ⅰ．エコシステム形成推進主体について

自治体･民間組織･大学の連携の具体的な方策（国の７つの戦略と本市の計画との相関図）

プレシード	シード	アーリー	ミドル（グロース）	レイター
売上高0円、従業員0人		2億円未満、10人未満	2億円以上、10人以上	30億円以上、50人以上

★北九州産業学術研究都市　（公財）北九州産業学術推進機構（戦略2 大学を中心としたエコシステム強化）
･九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学大学院などの理工系の国･公･私立大学や研究機関が集積。
･研究開発支援としての令和2年度予算約1億4200万円（戦略4 Gap Fund）

学研都市からコーディネータ派遣　　研究フィールドの提供･各種支援
（戦略2 大学を中心としたエコシステム強化）

★九州工業大学
→ロボット、宇宙などの学生プロジェクト支援
→オープンイノベーション機構設立（戦略6 繋がり形成強化）
★北九州市立大学→アントレプレナーシップ教育
★立命館アジア太平洋大学→留学生スタートアップ支援
★北九州工業高等専門学校
→高専起業部の運営、JICAと連携した社会課題解決

大学×民間組織×自治体の連携協定

★九州工業大学×㈱YE DIGITAL×市の連携協定（予定）
→オープンイノベーション人材の育成（戦略6）
★北九州高専×日本政策金融公庫×市の連携協定
→地域の中核的な役割を担う人材の育成

★秘密基地 → 創業セミナー開催
★fabbit北九州 → IT関連企業の入居促進

大学やコワーキング施設と連携した
スケールが期待される案件掘り起こし（ピッチ登壇等）

各支援メニュー活用

実証実験（POC）の支援体制の整備（市）
→ まち全体を実証フィールドとした官民を挙げた支援
（例）自動運転バス、インフラ点検ロボット（ドローン）等

オープンイノベーションイベント開催（戦略6 繋がり形成強化）
→ 北九州でIoT、西鉄バスストップ3.0等

官民タッグによるスタートアップ人材確保支援
→ Uターン事業、副業･兼業を通じたCXO人材獲得支援（戦略7 人材流動化の促進）

★北九州市アジア低炭素化センター
★北九州市海外水ビジネス推進協議会
★JICA九州、JETRO北九州（戦略6 繋がり形成強化）
→ アジア地域を中心としたグローバル展開支援

スタートアップSDGsイノベーショントライアル
→ 市のトライアル発注の拡大（戦略5 公共調達）

全国スタートアップ誘致

★グローバルアクセラレーションプログラム実行委員会（戦略3 アクセラレータ）
→（㈱安川電機等の地元大手企業、証券会社、金融機関、VCの14社が事業拡大支援プログラムを提供
→シリーズAの壁（数千万円程度の投資を受けるレベル）を超えるための強力な伴走支援を実施

★創業支援施設COMPASS小倉（指定管理）（戦略3 アクセラレータ、6 繋がり形成強化）
→ 創業相談、定期的なピッチイベント開催、アクセラレーションプログラムの実施

Ⅱ．地方自治体の取組

首長の方針　～産学官が緊密に連携しSDGsをコンセプトにした日本唯一のスタートアップエコシステムを構築～

○産学官で**SDGsに取組むトップランナー、ものづくり企業の集積**といった北九州市の強みを活かすとともに、新たに立ち上げる**産学官コンソーシアムのイニシアティブにより、まち全体の支援力を引き上げ、スタートアップの成長を加速化**することで、スタートアップから選ばれる都市を目指す。

（1）総予算額　2020年度　12億円

2021年度以降：支援施策のフェーズに併せて拡充予定

（2）主な支援事業

拠点機能強化　2千3百万円
成長加速（事業拡大プログラム・研究開発助成）　1億6千万円
ひと・もの・資金 経営資源支援
創業支援施設運営　1億2千3百万円
開業支援資金融資　9 億円

「集まる（拠点となる）」 → 「育つ（成長する）」 → 「輝く（大きくはばたく）」

支援基盤を新たに強化する

ピッチ等イベント
年間 **100回開催**

開業ワンストップセンター
雇用労働相談センター
（国際戦略特区活用）

学生CEO輩出プロジェクト

次世代産業ロボット等の先進プロジェクトと連携したスタートアップ誘致

JETRO等と連携した海外スタートアップ誘致

産学官コンソのイニシアティブでまちの支援力を引き上げる

グローバルアクセラレーションプログラム実行委員会の集中支援［P17参照］
（ユニコーン輩出へ）

- 将来有望なベンチャーを選抜し、半年間徹底的にビジネスプランをブラッシュアップし、市内大企業等とマッチング。
- VC、証券会社、各銀行がアクセラレーターとして参画。
- メンターとしてデロイトトーマツによる伴走支援を実施。

メンターの伴走支援

まち全体が実証フィールド～官民を挙げた実証支援～［P９参照］

- 産学官のエコシステムコンソーシアムが窓口となり、実証内容に適したチームを編成し実証実験を伴走支援。
- 国家戦略特区を活用する他、市内遊休地、民間企業の協力を得て、実証の内容に合わせて多様なフィールドを提供。また調達・アライアンスのマッチングサービスを実施。

自動運転バスの実証

IoT Makers 創出プロジェクト「北九州でIoT」

- IoTに関する製品アイデアを募り、ものづくりスタートアップの製品事業化を目指す。
- ㈱ABBA Lab 小笠原治氏をはじめとする著名メンターや高専と連携したアクセラレーションに加え、市内ファブラボを活用した試作・開発支援など、ものづくりスタートアップを徹底支援。
- 大企業・中堅企業とのオープンイノベーション促進。

インフラ点検ロボ開発
（2018年度採択案件）

強みを活かしグローバルで戦う

本市の強みを活かした海外展開支援［P15参照］

- 国際協力により築いた各国政府等とのネットワークをフル活用し海外展開を支援

【アジア低炭素化センター】
・環境ビジネスの海外展開支援

【海外水ビジネス推進協議会】
・海外水ビジネス展開を目的とした官民連携組織による支援

廃棄物管理改善事業
（カンボジア）

- JETRO北九州、JICA九州等と連携した海外企業とのマッチング、大規模展示会出展

先進プロジェクトとの連携

- 北九州市の大規模プロジェクト（次世代産業ロボット、先進的介護システム、環境関連等）との連携による出口支援

官民タッグによるCxO人材獲得支援

- 北九州市のU・Iターン、セカンドキャリア支援プロジェクト、福岡県プロフェッショナル人材センターや、(株)YOUTURNなどの民間サービスのネットワーク強化により高度人材の獲得を支援
［P40参照］

徹底した国の施策との連携
～北九州のまち全体が実証フィールド　国家戦略特区を活用してイノベーションを生み出すスタートアップ拠点へ～

○ **コンソーシアムに参画する民間企業、団体がタッグ**を組み**「チーム北九州」**で実証から出口まで、切れ目ない支援を提供する**「実証ワンストップセンター」の運営体制**を構築。
○ **コンソーシアムがコーディネート役**となり、**実証実験をサポート**するとともに、コンソーシアムや参画企業が持つ**アクセラレーションプログラム、ピッチイベント等**を通して、**開発課題をもつ大企業・中堅企業とのマッチング**の機会を併せて提供することでスタートアップにとってより魅力的なフィールドを目指す。
○ 特区の活用により、「自動運転」「小型無人機」「IoT、無線通信等の電波利用」などの**高度な産業技術を活用した実証実験**や、**介護ロボット等の社会実装に向けた実証など**、実証フィールド環境を整備。
○ 北九州エコタウンに**「実証研究エリア」を整備**し、廃棄物処理技術や新エネルギーなど幅広い環境関連技術の実証を展開。

実証実験に関する20年以上の実績が北九州市の強み

地元住民説明から倫理審査委員会の開催まで事業化に必要な様々な調整事項をフルサポートします

エコタウン事業
（1997年北九州エコタウンプラン策定）

北九州エコタウン実証研究エリア

環境の未来へ向けて数多くの技術が「実証研究エリア」で開発され、成果をあげている。企業、大学など、資源リサイクル、新エネルギーなど幅広い環境関連技術を実証的に研究する施設が集積。

廃棄物研究施設

実証ワンストップセンター
【P41参照】

これまでの実績（H30.11～R2.3）

「自動車の自動運転」「小型無人機」「IoT、無線通信等の電波利用」実施件数

実施団体	実施回数
18団体	**134回**

ONE STOP Support Center for Demonstration Tests

3次元地図による自動飛行実証
(株)ゼンリン

介護ロボットの実証
（国家戦略特区制度の活用）

北九州市介護ロボット開発コンソーシアムによる実証支援の実績

7分野/14機種
の介護ロボット等を導入

現場ニーズに沿った実用的な技術開発と特区事業効果の最大化に貢献するため、「北九州市介護ロボット開発コンソーシアム」を設置し、ロボット関連技術の開発を行っている。

市内ロボット企業をはじめ、大学、北九州産業学術推進機構、市を中心とした強力な連携

○ 北九州地域を世界有数のロボット研究開発拠点へ

- **北九州市**、産業用ロボットのトップメーカーである**㈱安川電機**、ロボット関連技術に強みをもつ**九州工業大学**、**(公財) 北九州産業学術推進機構**が連携し、**「地方大学・地域産業創生交付金」**を活用し**革新的ロボットの研究開発とロボット技術の地域企業への導入**を進める**「革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト」**を展開。
- 2020年度に竣工予定の**「安川テクノロジーセンタ」**では、オープンイノベーションにより研究開発を加速。
- **九州工業大学大学院**に**「(仮称) ロボットアントレプレナーコース」**を新設。起業家精神と経営能力を備えた実践的な人材を育成。
- 他にも、国家戦略特区を活用した**介護ロボットの**社会実装や、**社会インフラ等の点検ロボット**開発プロジェクト等を展開。

地方大学・地域産業創生交付金を活用した取組み

革新的ロボットテクノロジーによる「自律作業ロボット」の研究開発（人と同じ作業ができる汎用ロボット）

自律作業ロボット研究開発

トップ人材招聘

スタートアップのCEOなど九州工業大学特命教授4名を招聘

スティーブ・カズンズ
CEO
（米国サビオーク）

ロルフ・ファイファー
教授
（チューリヒ大学）

比留川 博久
センター長
（産総研）

山田 陽滋
教授
（名古屋大）

安川テクノロジーセンタ

オープンイノベーションやトップレベル人材の招聘を通じて、実践的な開発高度人材を育成（2020年度竣工予定）

九州工業大学大学院 (仮称) ロボットアントレプレナーコース

国家戦略特区を活用した介護ロボットの社会実装

ロボット技術等の導入促進による介護職員の負担軽減と介護の質の向上を通じた先進的介護の実現

移乗アシスト装置
(㈱安川電機)

歩行リハビリ支援
（リーフ㈱）

市内ロボット企業に加え、環境･エネルギー分野や新分野でも大手企業と連携を推進

○ 環境・エネルギー分野の先進的なプロジェクト
若松区響灘地区には、廃棄物処理技術、資源リサイクル、新エネルギーなど**最先端の環境関連技術を実証的に研究**する民間企業や施設が集積。再生可能エネルギー分野では、民間企業と**風力発電関連産業の総合拠点化**を推進。

○ ㈱NTTドコモと５Ｇ、ビッグデータの活用によるSDGs達成に向けた連携協定を締結
全国で初めて**官民データ連携**を見据えたEBPMに関する実証実験の取組みを開始。

ロボットに加え、環境･エネルギーに代表される本市の強みの分野で大手企業とスタートアップの連携を促進

エコタウンにおける実証フィールドの提供と関連企業との連携

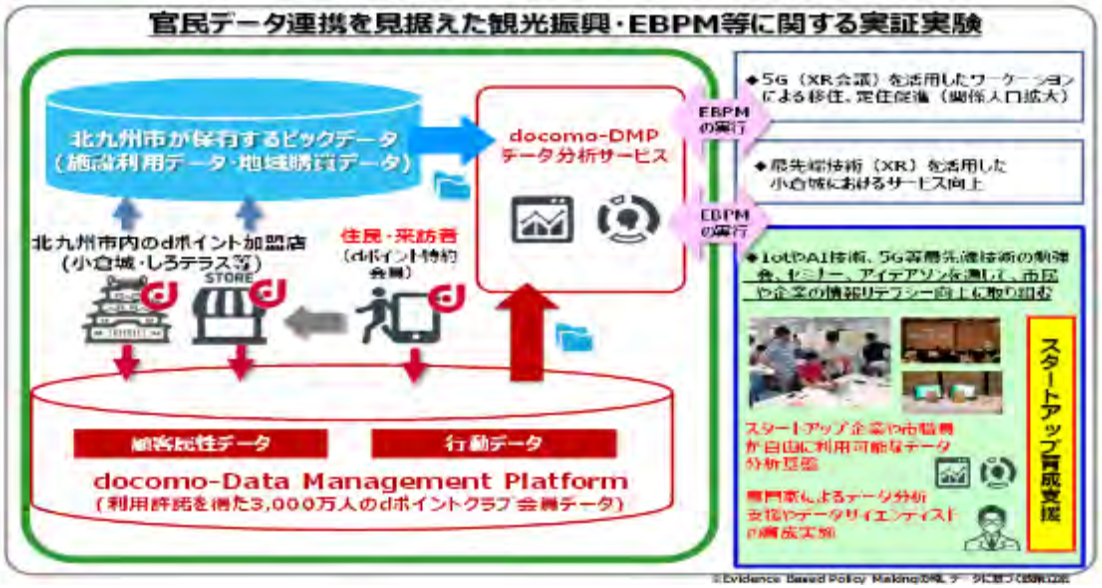
風力発電関連産業の総合拠点化

NEDOによるバージ型浮体式洋上風力発電システム

【総合拠点のイメージ図】

北九州市と㈱NTTドコモとの連携協定の締結 全国初の実証実験開始

全国初、官民データ連携を見据えた
EBPMに関する実証実験



公共調達にオープンイノベーションを～「スタートアップ SDGsイノベーション トライアル」をスタート

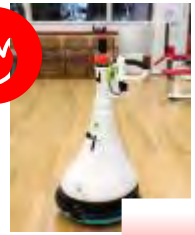
○ 北九州市が抱える介護人材不足やインフラ点検などの課題をテーマとして提示し、その**課題解決に取り組むスタートアップ企業**を募集。**市の職員**とともに課題に応える**製品・サービス等の開発**を進め、プロトタイプの**実証実験**や市の**トライアル発注**等につなげるプログラムをスタート。

○ 製品開発や**事業化支援**には、**グローバルアクセラレーションプログラム実行委員会の集中支援プログラム**等、コンソーシアムのサポートも最大限に活用。

○ 北九州市が**スタートアップとともに新たな製品やサービスを生み出す**ことで、行政の生産性を向上させるとともに、出口支援として、市のトライアル発注による実績を作り、同様のニーズがある**他自治体や民間企業への販路拡大**を支援。

スタートアップ企業
(技術・アイデア)

課題に応える
連携プロジェクト生成



課題
オリエンテッドの
テーマ設定

介護人材不足や
インフラ点検の課題

北九州市
(課題)

事業化支援

メンタリング
コンソーシアムメンバーの強力なメンター陣による機会提供

技術・開発
ロボティクスやIoTに強い高専や大学と連携したファブラボネットワークによるプロトタイプ作成支援

実証フィールド
実証実験のサポート
現場職員のフィードバック

資金支援
充実した開発助成制度
(審査時の加点)

北九州市やSDGs
スタートアップ
エコシステム
コンソーシアムに
よるサポート

出口支援

- グローバルアクセラレーションプログラム実行委員会による集中支援
  ・ビジネスモデルブラッシュアップ
  ・投融資の呼び込み　・提携先紹介
- 市のトライアル発注による事業実績
- イベントにおけるピッチなどのビジネスマッチング機会提供
- 大規模展示会出展助成（審査時の加点）
- SDGsイノベーションとして国内外に情報発信

下水道管の検査ロボット
【トライアル発注認定品】

他自治体・民間企業
へ販路拡大

Ⅱ．地方自治体の取組

県や北九州都市圏に加え、さらに広域の自治体間連携を促進

○ 福岡県と密接な連携のもと、高度技術の開発・先端分野展開をリードし、ベンチャービジネスを育成
北九州圏域における、ロボットなど、ものづくり産業で培われた技術と人材の蓄積を活かして、**福岡県や地域企業との連携**により、**産業用ロボットの高付加価値モノづくりクラスター**の形成を進めている。また、**福岡県ベンチャービジネス支援協議会**が実施する**「フクオカベンチャーマーケット」**を活用している。

○ IT産業集積へ「ブロックチェーン技術を核としたグローカルな創業環境」を目指す飯塚市との連携強化
九州工業大学 情報工学部、近畿大学産業理工学部が立地し、**「e-ZUKAトライバレーセンター」**を核にスタートアップ支援を進める飯塚市との連携を強化し、相互の強みを活かしながら大学発ベンチャーの創出、オープンイノベーションの促進等を図る。

○ 北九州がムーブメントの中心に～圏域でスタートアップを盛り上げる～
・ 相談事業や起業家向けセミナーなどの**北九州市の支援事業**について、**北九州都市圏域（連携中枢都市圏17市町村）全体で活用を進め**ているほか、**下関市との交流事業（「startupweekend　関門」）**なども展開。
・ 圏域の他自治体においても**創業支援の拠点が新設**。圏域全体でスタートアップを支援し創業機運を盛り上げる。

ものづくりの先端分野における福岡県等との連携

福岡県ロボット・システム産業振興会議

産業界、大学及び行政が緊密に連携して、福岡県域でこれまでに培ってきたロボットや半導体関連の技術ポテンシャルを活用し、新技術の開発を推進する。
ロボット･システム製品開発支援事業、実証実験促進事業、大規模展示会出展支援、技術者養成講座、ロボットシステム開発センター等の施設によるインキュベーション支援、開発用装置の提供　など

展示会への出展の様子

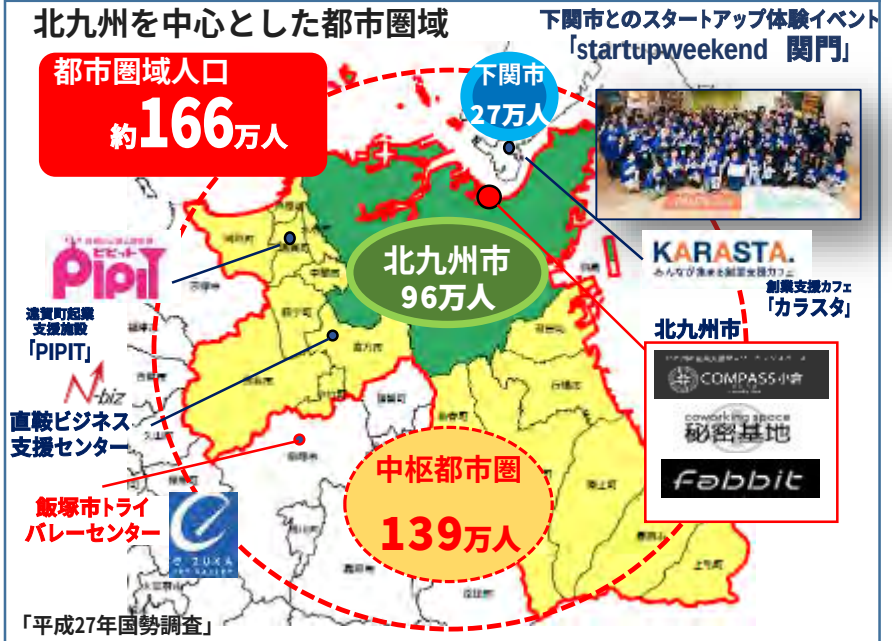
【会長】津田純嗣
(株)安川電機代表取締役会長
【会員数】８４０企業･団体等

福岡県ベンチャービジネス支援協議会

福岡県がベンチャー企業の育成･推進する官民連携のベンチャー支援プラットフォームとして設置。ベンチャー企業とビジネスパートナーのマッチングの場「福岡ベンチャーマーケット（ＦＶＭ）」を平成11年から開催し、専門コーディネーターによるビジネスプラン策定や資金調達、販路開拓支援を実施。　ＦＶＭの実績（240回開催）
登壇企業2,619社、株式公開28社、商談成約514社

【会長】貫正義（九州電力(株)相談役）
【会員】240社･団体（ＶＣ，銀行、商社、メーカー、証券会社、監査法人、生保･損保、自治体、支援機関等）

北九州都市圏における創業機運の醸成



本市の創業に関する事業を、圏域の自治体でも活用するとともに各自治体のインキュベーション施設との連携も強め、圏域全体で創業機運を盛り上げる。

北九州県域を越えた自治体間連携も推進

1　福岡市、飯塚市をはじめとした県内の拠点施設との連携強化

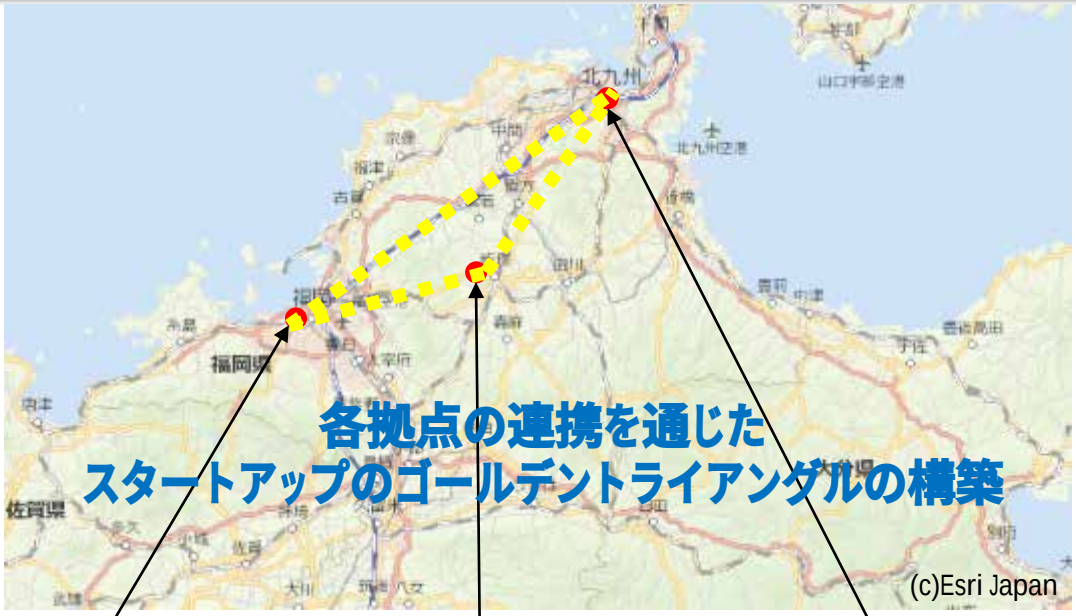
（１）各拠点施設の入居企業の交流促進

年１～２回程度、COMPASS小倉入居企業がFGNやe-ZUKAトライバレーセンターに出向いて自社サービスを紹介するなど（逆パターンも想定）、相互の入居企業や学生などが参加するピッチ・マッチングイベントを開催。

（２）各自治体のイベントを通じた連携

IoT Makers創出プロジェクト「北九州でIoT」の開催に係る連携

プログラムの説明会を福岡市、北九州市の両会場で実施し、両市のスタートアップの参加を促進。



2　国家戦略特区制度を通じた福岡市との連携強化

国家戦略特区

国家戦略特別区域制度を活用して、令和２年度中にCOMPASS小倉内に「開業ワンストップセンター」と、「雇用労働相談センター」を設置。

先行して取組みをすすめている福岡市との意見交換、情報連携を通じて、ノウハウの共有を行う。

3　県内自治体担当者間の実務者会議の開催

積極的に創業支援に取組む福岡県下の市町村担当者※で意見交換会を実施。スタートアップ・創業支援の情報を共有し、スタートアップ支援体制の底上げを行う。

※飯塚市、糸島市、北九州市、久留米市、福岡市、宗像市等（50音順）

環境･エネルギー分野の比類なき強みを活かし、北九州がアジアのSDGsイノベーションハブになる

○ 海外からスタートアップを呼び込む
- **海外展開支援機関（JICA九州、JETRO北九州）**との連携によるプロモーション強化（招聘事業等）、**現地政府や現地コワーキングスペースとの連携**による**海外スタートアップ**と**市内大手企業**のオープンイノベーションニーズとの**マッチング**。
- 北九州市の**先進プロジェクト（ロボット等）**との連携や**スタートアップビザ制度**による**海外スタートアップの誘致**。

○ スタートアップの海外展開をサポートする
- 本市の強みである**「環境国際展開事業」、「海外水ビジネス事業」**における**各国政府等とのネットワーク**をフル活用。［P37,38参照］
- **海外展開支援機関（JICA九州、JETRO北九州）**と連携、**現地ニーズとのマッチング**や、**大規模展示会への出展**などによる後押し。

北九州貿易・投資ワンストップサービスセンター

過去５年間の支援実績（2014～2019年度）

北九州市･JETRO北九州･（公社）北九州貿易協会の3機関からなるワンストップセンターで北九州へグローバルビジネスを呼び込む。

対日投資支援

７６件

日本初開催　ホラシスアジアミーティング

北九州市は、スイスの独立系シンクタンク、**ホラシス**とアジアの経済交流をテーマにした**国際会議を日本初開催**。会議では、**東南アジアを中心に企業経営者や投資家ら400名**を招き、**環境技術**や**ESG（環境･社会･企業統治）投資**などをテーマにビジネス交流を図る。会議参加者と**スタートアップとのマッチング促進イベント**を企画。［P39参照］

ホラシス会長リヒター氏と北橋市長

環境国際ビジネス支援

海外水ビジネス支援

アジアとつながる３つの力①公害克服の経験　②長年培った各国との信頼関係　③高い環境・エネルギー・上下水道技術の集積

北九州市アジア低炭素化センターを通じた海外展開

過去10年間の現地プロジェクト実績
（2010～2019年度）

実施地域
16の国と地域 80都市

プロジェクト数
211プロジェクト（約１９６億円）

廃棄物発電導入支援（ダバオ市）

2010年に、アジア地域の低炭素化を通じて地域経済の活性化を図る「アジア低炭素化センター」を開設。アジア諸国への都市環境インフラパッケージ関連のプロジェクトを多数展開。

北九州市海外水ビジネス推進協議会を通じた海外展開

2010年に、海外での水ビジネス展開を目的とした官民連携の組織として設立。民間の高い技術力等が強み。

過去10年間の受注実績（2010～2019年度）

受注件数
71件

受注額
約155億円

海外でのスタートアップオフィスの機能を備えた北九州市海外事業サポートセンターをカンボジア･ベトナムに開設。

ベトナムに完成した高度浄水処理技術（北九州市が開発）

創業期からグローバル展開まで、スタートアップの一貫支援に向けた組織体制にアップデート

○ 市の創業支援型コワーキングスペース「COMPASS小倉」「北九州貿易・投資ワンストップセンター」と同施設内に、**「スタートアップ推進課」**を新規設置。創業期からグローバル展開まで、**スタートアップを機動的に支援**できる環境を整備。
○ 産業経済局内に、**局長をトップ**に関連部署の職員も併せて**約７０名**でスタートアップを支援する**体制を構築**。
○ **顔となる職員**（U４０）のうち１名を**デロイトトーマツベンチャーサポート㈱に派遣**し、スタートアップ支援のノウハウとネットワークを獲得するとともに、地域のイノベーション創出施策を実行する**イノベーションオーガナイザーとして育成**。

（１）担当部局名　担当者数

2020年度　スタートアップ推進課　新設

部長（1）　－　課長　（1）　－ 係長（4）　－職員（5）
※　係長のうち、1名はトーマツ派遣、東京常駐

AIMビル：
小倉駅から徒歩5分

8F　**スタートアップ推進課**
JETRO北九州　貿易協会　貿易・投資ワンストップセンター

6F　創業支援型コワーキングスペース
「COMPASS小倉」

2F　若者ワークプラザ、ウーマンワークカフェなど
若者や女性の就職・採用支援機関が集積

産業経済局内に局長をトップとする支援体制構築

部署	役割	職員数
スタートアップ推進課	全体総括、海外展開・スタートアップ誘致	15
中小企業振興課	市内中小企業とのマッチング	12
産業イノベーション推進室	産学連携総括、産業用ロボット等の大規模プロジェクト推進	16
産業政策課	市内大手企業とのマッチング	5
企業立地支援課	スタートアップの誘致	23

（２）支援の顔となる職員

産業経済局長
鮎川　典明
関連業務経験
８年３か月

産学政策課長、地域産業課長、
観光部長等を歴任。
令和元年度から産業経済局長に就任

支援の顔となる職員　スタートアップ推進課　U40

係　長
岡本　芳郎
関連業務経験
11か月
市の環境分野
に精通
民間のエンジニア
経験を活かす

係　長
谷本　真一
デロイトトーマツ
ベンチャーサポート
派遣
MICE誘致で実績
スタートアップ担当に
抜擢

主　任
加地　敬史
関連業務経験５年11か月
COMPASS小倉立ち上げに従事

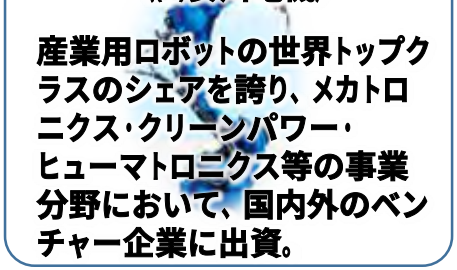
職　員
中村 理紗子
関連業務経験１年11か月
広報企画担当

職　員
西山　佑
関連業務経験１年11か月
グローバル展開担当
ベトナム語を習得

民間主体のグローバルアクセラレーションプログラム実行委員会を通じてSDGsに資するユニコーンを輩出

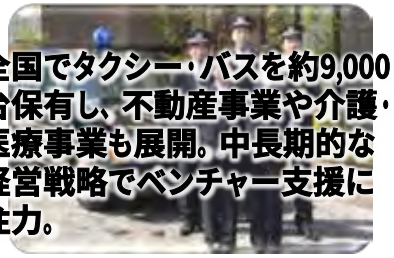
○ 地域の**大手企業**、全国規模の投融資会社、金融機関、VC等から構成されるグローバルアクセラレーションプログラム実行委員会が、**有望な起業家を集中支援するプログラムを展開**。
○ デロイトトーマツベンチャーサポート㈱が運営に携わり地域の大学等からの紹介をもとに、将来有望なベンチャーを選抜。
○ 北九州市に本社を置く㈱安川電機、第一交通産業㈱などの**大手・中堅企業による事業化支援、証券会社などによるアライアンス先紹介、VCによる出資など、半年間にわたり徹底的に出口支援し、北九州市からテック系グローバル企業を輩出**する取組みを強化。

YASKAWA
㈱安川電機



産業用ロボットの世界トップクラスのシェアを誇り、メカトロニクス・クリーンパワー・ヒューマトロニクス等の事業分野において、国内外のベンチャー企業に出資。

第一交通産業グループ
DAIICHI KOUTSU SANGYO Co.,Ltd.



全国でタクシー・バスを約9,000台保有し、不動産事業や介護・医療事業も展開。中長期的な経営戦略でベンチャー支援に注力。

SDGsに資するグローバル企業へユニコーン輩出

グローバルアクセラレーションプログラム実行委員会による出口支援
（会長　津田　純嗣　（株）安川電機　代表取締役会長）

約半年の集中支援プログラム

Deloitte. デロイトトーマツ

【支援内容】
事業化支援／アライアンス先の紹介
出資／融資提案／グローバル展開支援

北九州市のあらゆるリソースをフル活用

有望なベンチャーの紹介

・住宅設備機器総合メーカー**TOTO㈱**
・地元IT大手 **㈱YEDIGITAL**(IoT関連協業)
・大手浄水器メーカー **㈱タカギ**
(メディアタイアップ)
・ITセキュリティ大手 **㈱ラック**
(スタートアップ連携,発掘,投資)
・**西日本鉄道㈱、西部ガスグループ、㈱NTTドコモ** など

北九州市アジア低炭素化センター、北九州市海外水ビジネス推進協議会、北九州貿易・投資ワンストップサービスセンター、JICA九州、JETRO北九州による海外展開支援

・大和証券㈱、野村證券㈱
・㈱みずほ銀行、㈱三井住友銀行、㈱三菱ＵＦＪ銀行
・日本政策金融公庫
・㈱北九州銀行、㈱西日本シティ銀行、㈱福岡銀行、福岡ひびき信用金庫
・日本ベンチャーキャピタル㈱等の各VCが参画予定　（各50音順）

九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学大学院、立命館アジア太平洋大学、北九州工業高等専門学校
インキュベーション施設（COMPASS小倉、学研都市等）、商工会議所、民間支援団体

各主体の果たす役割とグローバルアクセラレーションプログラム実行委員会との繋がり

売上高0円、従業員0人 → 売上高2億円未満、従業員10人未満 → 2億円以上、10人以上 → 30億円以上、50人以上

プレシード → シード → アーリー → ミドル(グロース) → レイター

北九州市SDGsスタートアップエコシステムコンソーシアム

★(公財)北九州産業学術推進機構
・学術研究都市の運営、研究開発支援
(令和2年度予算約1億4200万円)
・専門家派遣

★九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学大学院
・学術研究都市での「環境技術」「情報技術」を中心とした教育研究活動

★㈱安川電機×九州工業大学
(安川テクノロジーセンタ)
・オープンイノベーションラボの運営。
・革新的ロボットテクノロジーの研究開発

産学連携によるシーズ発ベンチャー(CTO)育成・輩出

★北九州市立大学(アントレプレナーシップ教育)
★立命館アジア太平洋大学(留学生スタートアップ支援)
★(一社)まちはチームだ(コワーキングスペース運営、創業セミナー開催)
★fabbit㈱(創業支援施設COMPASS小倉運営、コワーキングスペース運営)

起業家(CEO)育成・輩出

起業家(CTO)育成・輩出

★九州工業大学(ロボット、宇宙などの学生プロジェクト支援(年最大200万円))
★北九州工業高等専門学校(高専起業部運営、JICAと連携した社会課題解決)

シード期から大学とスタートアップ支援機関が連携

スケールを目指す起業家育成・輩出

ビジネスマッチングイベント
★FFG・VBP(事業運営・出資) ★Gx・PartnersLLP(事業運営・出資)

IoTをテーマとしたビジネスコンテストやアクセラレーションプログラムの実施
★デロイトトーマツ(事業運営) ★㈱ABBALab他(メンター・投資)
★㈱YEDIGITAL(協業、事業への協賛) ★㈱ラック(協業、事業への協賛)

創業支援施設COMPASS小倉でのアクセラレーションプログラムの実施
★fabbit㈱(事業運営) ★ボードウォークキャピタル㈱(メンター・投資)
★㈱ABBALab(メンター、投資)

グローバルアクセラレーションプログラム実行委員会

大学等各支援機関の中からユニコーンを目指す有望な起業家を選抜のうえ民間リソースをフル活用し徹底的に育成支援

会長(㈱安川電機:津田会長)
事務局(市)、会員(以下の14社)

★金融機関7社(融資提案)
★野村証券㈱、大和証券㈱(アライアンス先の紹介)
★日本ベンチャーキャピタル㈱、Gx・PartnersLLP(出資)
★㈱安川電機(協業、会長職、協議会への協賛)
★TOTO㈱、第一交通産業㈱(協業、協議会への協賛)

★デロイトトーマツ(選抜企業の伴走支援)
→ 約3社を半年(毎週2時間程度)伴走支援

≪目利きレビュー≫
・デロイトトーマツによる支援結果を約6カ月毎に会員企業がレビューし、オファー(投融資や協業)、継続を確認

オープンイノベーション等各社独自の取組み

★㈱YEDIGITAL(新社屋を活用したIoT関連協業支援)
★㈱タカギ(地元ラジオ局と連携したスタートアップPR支援)
★西日本鉄道㈱(バスストップ3.0などの独自プログラムを提供)
★㈱NTTドコモ(5G・ビックデータを活用した実証実験)

北九州都市圏域で活動するVC、アクセラレーターに加え、全国から本市のエコシステムに参画

○ 近年、**地元の銀行系、独立系VCだけでなく、東京を拠点とした著名なVC・アクセラレーターの活動**が活発化。
○ 学発等の**テック系ベンチャー**がシーズオリエンテッドの事業を試みるが、**スケールアウトに至っていないのが現状**。
○ VCとのかかわりが少なかったことが要因の1つではないかと考え、エコシステムにおいては、これら課題を踏まえて取組む。
○ 顧客目線の商品・サービスの追求、**VC・アクセラレーターによるスケールアウトプログラムを徹底的強化**。
○ **SDGs先進都市としての投資環境の熟成**を図る。

Gx・Partners有限責任事業組合
岸原氏
福岡市に拠点を置く独立系VC
シード、アーリーを中心に投資。

持続的な投資環境の熟成

スケールアウト

日本ベンチャーキャピタル㈱
照沼氏
東京を拠点に活躍するVC
北九州市顧問としての肩書も持ち
全国に北九州市の魅力を発信する。

ひびしんキャピタル株式会社
北九州市に拠点を置く銀行系VC
15年以上の歴史があり、アーリー、
エクスパンションを中心に投資。

㈱ＡＢＢＡＬａｂ
小笠原氏
ＩｏＴハードウェアのスタートアップを支援するシードアクセラレーター。

FFG
FFGベンチャービジネスパートナーズ
福岡市に拠点を置く銀行系VC
大学発ベンチャーをはじめ多くの
スタートアップを支援。

ボードウォークキャピタル㈱
那珂氏
東京を拠点に活躍するVC
日本とアジアのスタートアップ支援
をミッションに活動。

まちはチームだ。
㈱まちはチームだ　岡氏
北九州市でコワーキング施設を運営。多くのイベントを企画開催
起業家のメンターでもあり、地域貢献に欠かせない存在。

Deloitte. デロイト トーマツ
アクセラレーションプログラムを
企画・運営。

本市のエコシステムにおけるキーパーソン・インフルエンサーの取組

○ スタートアップ界隈において**全国的に著名なキーパーソンの協力**に加え、市域に存在する多くのコミュニティと繋がりのある**強力なメンバーが本事業とＳＤＧｓ先進都市の取り組みにコミット**し、各々の特徴を活かした**情報発信を強化**する。

本市のＳＤＧｓスタートアップエコシステム拠点形成に向けキーパーソン・インフルエンサーが活動

日本ベンチャーキャピタル㈱ 照沼 大 氏

■市内スタートアップへの助言・投資
■市の顧問として全国のベンチャー誘致

- ○ 全国でも著名なベンチャーキャピタリスト
- ○ **市顧問**の肩書をもつ
- ○ 自らのネットワークを活用し、**ＳＤＧｓ先進都市の魅力を全国に発信**
- ○ 将来**有望なベンチャー企業の誘致**を行う

㈱ＡＢＢＡＬａｂ 小笠原 治 氏

■市内スタートアップへの助言・投資
■ＩｏＴメイカーズの主要メンター

- ○ **ＩｏＴハードウェア**のスタートアップを支援する**シードアクセラレーター**
- ○ ものづくりのまち北九州市のポテンシャルに着眼
- ○ **市主催のアクセラレーションプログラムのメンター**
- ○ 市のインキュベーション施設運営にも参画

(一社)まちはチームだ 岡 秀樹 氏

■コワーキング施設運営
■創生塾（起業塾）開催

- ○ 地元密着型のコワーキング施設「秘密基地」を運営。
- ○ **世界のコワーキング施設との繋がりを活かしたグローバル展開支援**
- ○ 起業経験を活かした**アントレプレナー事業**を展開し、若者の起業成長をバックアップ

北九州工業高等専門学校 滝本 隆 氏

■高専生の起業家育成
■ロボティクス企業の経営

- ○ 九州工業大学西田准教授と**ロボティクス分野のスタートアップ（キックロボティクス）を設立し**、ＣＥＯに就任
- ○ **高専発ベンチャー**や**高専起業部**の立ち上げ、運営をサポート
- ○ エンジニア**起業家**として**スタートアップシーンを牽引**

KiQ Robotics

(公財)北九州産業学術推進機構 糸川 郁己 氏

■ＩＴコミュニティ形成
■ＳＮＳを用いた情報発信

- ○ 地域課題をＩＴ技術で解決する任意団体「Code for Kitakyushu」、産学官民金が連携しオープンイノベーションに取組む「北九州e-PORTパートナー」等の**ＩＴ・新規事業創出コミュニティ運営**
- ○ **スタートアップ関連イベントの企画、関連情報のSNS発信**
- ○ 市域の**インフルエンサー**として**エコシステムの取組みを加速化**